<STEP2 事例 優先度の高い環境行動の実施>

省エネが生む快適空間 お客様満足度を高める旅館の環境対策

(株式会社北原 旅館こうろ 代表取締役 北原達馬さん)

取材日: 2025.7.11

取り組みの背景・きっかけ Q

- ・館内の電灯と電球の数が非常に多かったため、消費電力が多いのはもちろん、白熱電球は寿命が短く交 換頻度が高いことが従業員の負担になっていた。
- ・消費電力の「見える化」サービスを利用している同業者から、実際に省エネ効果が出ている話を耳にし、 自社でも導入することにした。
- ・「日本には元々"もったいない"文化があり、今さら外から言われることではない」が、業界全体ではサ ステナビリティや環境への配慮をする傾向があり、無視できない要素になってきていると感じる。

Q 取り組みの内容・取り組みを進める上で工夫したこと苦労したこと

Α

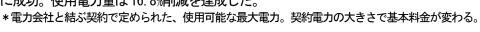
- ・組合の提携商社であるネクシーズ ZERO (月々の固定費での設 備導入を支援するサービス)を活用し、館内の照明を全てLED 化した。
- ・館内の省エネルギー化を進めるため、補助金を活用して空調を 効率の高い設備へ更新するとともに、客室の窓ガラスを複層 ガラスに交換した。(国土交通省建築物省エネ改修推進事業)
- ・会社で使用する電気は"自分ごと"になりにくい。まずは従業 員の意識を省エネへ促すため、電力の使用状況が数値とイラ ストの変化で表示されるデマンド監視機器(スマートエリア *) や、電力の使用状況により色が変わる時計(スマートクロ ック*) を設置した。*提供:日本テクノ(株)



- ・従業員スペースや社内イントラネット上に省エネに関する告知を掲載し、日常的な業務として「省エネ」 を意識づけ、取り組みへの協力体制を整えた。
- ・厨房や配膳室の冷蔵庫の「霜取り時間」が重なっていたため、各冷蔵設備の霜取りのタイミングをずら すことにより、電力ピークのカットを実現した。
- ・セントラル空調方式からフロアごとに空調管理が出来るガスヒートポンプ(GHP)に変更した。電気代を 抑えられ、また停電時でも稼働できることや、暖房能力が高く立ち上がりが早いことが、「快適な空間の 提供」につながった。

成果とメリット Q

- ・LED 化による省エネで、夜間にロビーの照明をつけたまま でも従来に比べ電気料金を抑えることができ、"安心・安全 なおもてなし"の提供につながっている。また、白熱電球 に比べ電球の交換回数が激減、維持管理の事務負担が軽減 されている。
- 客室の窓ガラスを複層化ガラスにすることで冷暖房効率が 向上。外部からの騒音も客室内で軽減され、宿泊客の満足 度向上に貢献している。
- ・電気の「見える化」機器を導入したことによりピーク電力 を抑えることが出来、契約電力*を10.8%低減させること に成功。使用電力量は16.8%削減を達成した。



株式会社北原 旅館こうろ(代表取締役 北原達馬)

京都市中京区、従業員:約50人(パート、アルバイト含む)

事業内容:旅館業

(https://www.kohro.com/)

